

新学習指導要領の内容とこれまでの実践を生かした
川上ブランド「食農教育」の在り方
～探究的で横断的・総合的な学習を目指して～



いちき串木野市立川上小学校 教諭 北野 誠一郎

新学習指導要領の内容とこれまでの実践を生かした 川上ブランド「食農教育」の在り方 ～探究的で横断的・総合的な学習を目指して～

いちき串木野市立川上小学校 教諭 北野 誠一郎

《目 次》

1	はじめに	1
2	総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び目標	1
3	主 題	2
4	主題設定の理由	2
5	学習活動を見つめる視点と手掛かり	2
6	学習内容の検証と評価	3
	(1) 米作り・ふれあい活動	3
	(2) トウモロコシ（ポップコーン用爆裂種）の栽培活動	4
	(3) 落花生の栽培活動	5
	(4) ジャガイモの栽培活動	5
	(5) 赤大根の栽培活動	6
	(6) 新しい畑の開墾作業（土づくり作業）	7
	(7) 小麦の栽培活動	8
7	現状のまとめと学習内容を見直す改善策	9
8	おわりに	10
9	参考文献	10

《研究の概要》

これまで総合的な学習の時間や生活科の時間に食農教育を展開してきた本校である。多くの作物の栽培を通して、命の連続性や大切さ、農家の方の苦労や工夫などを感じながら農業や食について体験的に学びを深めてきた児童である。食農教育は、川上小の特色ある教育活動として受け入れられてきた。

来年度から新学習指導要領が完全実施となる。また、今年度から「川上ブランド」の一つの柱として食農教育が位置づけられている。そこで、総合的な学習の時間で展開してきた学習内容を検証し見つけ直すことで、より良い学びにつながる活動になるのではないかと考えた。これまでの活動や実践をまとめ、見直す視点を明確にすることによって、今後行われる指導計画の見直し作業で活用できるのではないかと考えた。



ミニトマトの収穫

1 はじめに

本校は、いちき串木野市街地から離れた山間部の裾野に位置し、周辺には八房川が流れ、多くの田畑が広がるなど自然環境に恵まれている。全校児童数16名の極小規模校であり特認校制度を活用した児童の受け入れを行っている。茶や餅米の栽培活動など地域のコミュニティと連携した体験活動・体験学習が長年にわたり行われ、本校の特色ある教育活動の一つとなっている。

本校では、小規模校という特性があることから3・5・6年生9名で総合的な学習の時間の学習を合同で展開している。本年度から、本校では「川上ブランド」と銘打ち「読書指導・食農教育・ICT活用・英語教育」を特色ある教育活動として位置づけ、重点的な取組を始めた。その中の「食農教育」は、低学年の生活科、中・高学年の総合的な学習の時間を主な活動の時間として、校内の畑を使った作物栽培体験活動にここ数年力を入れて命を感じ育む活動に取り組んでいる。種蒔きから収穫、そして食べる活動まで、手や服を汚し汗を流しながら意欲的に活動している児童である。

来年度から新学習指導要領が完全実施となり、川上ブランドへの位置づけもあることから、これまでの学習活動を検証し、より良き学びの場となるよう総合的な学習の時間の内容の見直しを進めたいと考えた。



赤大根の収穫

2 総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び目標

まず、総合的な学習の時間の内容について、改訂の趣旨や要点、目標を簡単にまとめ、ポイントになる点を明らかにしてみた。

改訂の趣旨

- ・ どのような資質・能力を育成するのかということや総合的な学習の時間と各教科との関連を明らかにすることは学校によって差がある。総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにする。
- ・ 探究のプロセスの中でも、「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分でない課題がある。

改訂の要点

- ・ 探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。
- ・ 教科を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する活動を行う。
- ・ 自然体験やボランティア活動などの体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視する。

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

3 主 題

新学習指導要領の内容とこれまでの実践を生かした川上ブランド「食農教育」の在り方
～探究的で横断的・総合的な学習を目指して～

4 主題設定の理由

これまで総合的な学習の時間で多くの作物の栽培を通して、命の連続性や大切さ、農家の方の苦勞などを感じながら農業や食について体験的に学びを深めてきた。この活動の評価は高く、保護者や地域の方にも川上小の特色ある教育活動として受け入れられてきた。しかし、来年度から新学習指導要領が完全実施となる。また、今年度から川上ブランドの一つの柱として食農教育を展開していることもあり、総合的な学習の時間の学習内容をより良いものにするために、これまでの活動を検証し見直しを進めることにした。

まず、学習内容の見直しにあたり、学習指導要領の内容を踏まえていくことは大切なプロセスである。これまでの学習活動を振り返りながら、どれだけ学習指導要領の内容に沿ったものになっているのか、欠けているものは何なのかを整理しながら検証することで、見直しの手掛かりになると考えた。また、各学校での目標や内容の設定は、各学校の教育目標や各校の実態を踏まえることが求められていることから、これまで展開してきた学習内容の良さは最大限生かすべきだと考えた。小規模複式校であること、市街地から離れた地域であることなどの特性も考えたものにした。

さらに、学習指導要領の改訂の趣旨等にあるように、求められている内容が探究的な学習であること、各教科等と相互の関わりを意識した横断的な学習であることを踏まえる必要がある。学習活動の中に探究的なものが盛り込まれたものなのか、どのような点が他教科等と横断的に関わるものなのかを主として押さえない視点として明確にすることで、児童に限らず指導者にとっても意図的な広がりが期待できる学習活動になり、活動の意義がより深まるのではないかと考えた。そこで、上記のような主題を設定するに至った。



ジャガイモの間引き



薫炭作り

5 学習活動を見つめる視点と手掛かり

これまでの食農教育の学習内容を検証するために下記の5つの視点をもって確認していきたい。

	見 つ め る 視 点
主として押さえない視点	探究的な学習活動
	横断的・総合的な学習活動
押さえない視点	主体的・協働的な学習活動
	まとめ・表現する学習活動
	社会参画しようとする態度につながる学習活動

また、これまでの活動を振り返った児童の感想等も手掛かりとして活用し、より実情に応じた評価となるようにしたい。

6 学習内容の検証と評価

年度初めに児童が話し合い、年間の活動計画を立てる。植え付けや収穫の時期、必要となる世話や作業、収穫したものをどう生かすか等を考えながら「育ててみたい、やってみたい」という児童の思いをくみながら計画を立てている。

基本的にトマトやジャガイモ以外は種から育て始めている。命の始まりであり命をつないでいる種を意識させることで命の連鎖を感じさせたいと考えてのことである。また、必要な世話や作業も児童自身の手で行っている。命を育むことの大切さや難しさ、そして農家の苦労を体験的に学ぶ活動だと考えてのことである。

また、農業に頼らない栽培活動を続けている。その代償として害虫や病気の発生があり対処に追われることもあるが、これも学びと捉えている。経済活動として農業に取り組む農家の苦労を感じることができ、減農薬などの農家の工夫を考える機会にすることができる。

今年度は念願の新しい畑が校内に整備されたが、大小の石や瓦礫まみれの土であった。このピンチを学びのチャンスと考え、開墾作業に取り組んだ。

この開墾作業を含め、共通する作業などを整理して主な活動を選択して検証してみた。


【令和元年度 作物栽培年間計画】

期	作物名	植付場所
春	トウモロコシ (爆裂種)	畑
	落花生	畑
夏	ミニトマト	ビニルハウス
	ササゲ (グリーンカーテン兼用)	ベランダ
秋	赤大根	畑
	ジャガイモ	畑
冬	※小麦	新畑
	※エンドウ	新畑


※印は年度途中で追加された作物

【過去に扱った作物】

期	作物名	栽培年度
春	トウモロコシ (甘味種)	H 2 9 ・ 3 0
	落花生	H 3 0 ・ R 1
夏	オクラ	H 3 0
	ピーマン	H 2 9 ・ 3 0
秋	キュウリ (グリーンカーテン)	H 2 8 ・ 2 9
	ミニトマト・中玉トマト	H 2 9 ~ R 1
	米 (餅米)	~ R 1
	青首大根	H 2 8 ・ 2 9
冬	赤大根	H 2 8 ~ R 1
	白菜	H 2 9
冬	キャベツ	H 2 9
	水菜	H 2 9 ・ 3 0

No.1	活動名	米作り・ふれあい活動	活動の時期	5～11月
	学習活動の流れ	具体的な内容と見つめる視点等		
	籾蒔き ↓ 田植え ↓ 稲刈り ↓ 脱穀 ↓ 餅つき ふれあい活動	◆ 籾蒔きから脱穀、そして収穫した餅米を使った餅つき、お世話になった地域の方とのふれあい活動まで一連の活動に携わった活動を行っている。米作りの一連の流れと、手作業での作業の大変さを学んでいる。 【横断・総合】〈社会科〉3年農家の仕事, 5年稲作 ◆ 日本の食文化である餅つきを体験することによって伝統的な文化や風習を学ぶ活動になっている。 【横断・総合】〈道徳〉伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 ◆ 地域の方と一緒に活動することにより交流を深めながら、地域の方のもつ米作りや餅つきの知識や技能の伝承につながる活動になっている。 【横断・総合】〈道徳〉感謝, 礼儀 ふれあい活動(餅つき)	 稲刈り	
評価	探究的活動	△	横断・総合	◎
	主体・協働	○	まとめ表現	△
	社会参画	○		
考察	○ 社会科や道徳との横断的な関わりの深い活動である。 ● 田が学校から離れていることなどから、日常的な作業など地域の方に依存している点が多く、協働的な作業ではあるが児童が主体的に活動に関わってはいない。毎年のことでまとめが弱い。			

No.2	活動名	トウモロコシ（ポップコーン用爆裂種）の栽培活動	活動の時期	4～2月
------	-----	-------------------------	-------	------

学習活動の流れ	<p>種蒔き・育苗 ↓ 調べる活動 ↓ 施肥・畝たて マルチシート張り ↓ 苗植え ↓ 除草・灌水・追肥 ↓ (まとめる活動) ↓ 防風ネット張り ↓ 人工授粉 ↓ 収穫・乾燥 ↓ ポップコーン作り (食べる活動) ↓ まとめる活動</p>
	育苗作業

具体的な内容と見つめる視点等

◆ 種から苗を育てた。育苗用の土作りや種蒔きなども児童が自ら行った。作物の種類によって種の形や大きさ、発芽した芽（子葉）にも違いがあることを知ることができた。命の始まりやつながりを感じる大切な活動であるし、その作物に対する思いも深まったようだ。

【横断・総合】〈理科〉3年たねをまこう
〈道徳〉生命の尊さ等

◆ 昨年まではスイートコーンだったが、今年度は児童の希望によりポップコーン用の爆裂種を栽培した。スイートコーンと何が違うのか、トウモロコシにはどんな種類があるのかなど児童から多くの疑問が出され図書室で調べる活動を行った。育ち方にも違いがあることがわかり、スイートコーンと比較しながら生育を見つめる活動にもなった。【探究的活動】

◆ 児童が苦勞する活動が畝立てである。鋤を使うのが初めてという児童もおり、慣れてきた上学年の児童が教えながら作業をしている姿が見られた。農家の苦勞を知り、汗を流し手を汚し働くことの大切さを学べる活動となっている。

【主体・協働】【社会参画】
【横断・総合】〈道徳〉集団生活の充実、勤勞
〈社会〉3年農家の仕事

◆ マルチシートを活用している（マルチング）。活動時間に制限があるため、除草や灌水の手間が省くことが目的である。植物の成長条件を踏まえながらマルチシートの役割を意図的に考えさせることで科学的な思考を深めることができた。

【横断・総合】〈理科〉5年植物の発芽と成長〈社会〉3年農家の仕事

◆ トウモロコシは单子葉類である。雄穂、雌穂があり風媒花であることなど、植物によるつくりの違いを学ぶことができた。受粉の仕組みも分かりやすく受粉の可否が実際にどう影響するのかなど目で確認できた。

【横断・総合】〈理科〉花から実へ

★児童の感想★ 去年は失敗したけど今年はいまうまくいった。立派に育てるのは難しいと思った。トウモロコシの仲間でも種類がちがうと育て方や育ち方が少しちがったのには驚いた。乾燥させないとポップコーンにならないのにも驚いた。



畝立て・マルチシート張り



ネット張り終了



トウモロコシの収穫





乾燥中のトウモロコシ



評価	探究的活動	◎	横断・総合	◎	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	○
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------	---

考察

○ 児童が大きな喜びや満足感を得るためには過程が重要だと感じる。手や服を汚し汗を流しながら働いたからこそである。仲間との協力も欠かせない。次への意欲にもつながった。

○ 疑問から課題を持たせ、調べる活動とまとめる活動を並行して行うことで、学びの幅を広げることができる活動であった。意図的に視点をもたせることも大切である。

No.3	活動名	落花生の栽培活動	活動の時期	4～10月						
学習活動の流れ		具体的な内容と見つめる視点等								
種蒔き・育苗 ↓ 施肥・畝立て マルチシート張り ↓ 苗の植え付け ↓ 灌水・除草・追肥 マルチの撤去 (まとめる活動) ↓ 収穫・選別 ↓ 食べる活動 ↓ まとめる活動	<p>◆ 昨年収穫した落花生で大きい実があった。「これを種にして来年蒔くと大きな実がたくさんできるかも。」との児童の発想があり今年試してみた。品種改良の考え方と重なる。結果は大きな実も多かったが、気候や生育期間の違いがあり条件制御ができず結論は持ち越しとなった。栽培の視点の一つになり楽しみをもちながらの活動になった。</p> <p>【探究的活動】【主体・協働】【社会参画】</p> <p>◆ 落花生は名前の由来の通り、実の付け方が特殊である。今年は2回目の作付けだったが、花から伸びてくるつる(子房柄)の不思議さに興味をもち本で調べている児童もいた。【探究的活動】</p> <p>◆ 収穫したての落花生を塩ゆでにして食べた。その美味しさに児童は大盛り上がり。頑張ってきたことで更に美味しく感じたようだ。</p> <p>----- ★児童の感想★ マルチシートを途中ではがした。花からのびたつるが土に刺さりやすくするためだ。来年用の種も残した。来年も大きな落花生を食べたいな。</p>	 <p>収穫</p>  <p>落花生の塩ゆで</p>								
評価	探究的活動	◎	横断・総合	○	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	○
考察	○ 落花生の作付けは2年目。育て方を調べたりする活動は減ったが、種の大きさによる生育の違いに視点をおけたことで探究的な学びにすることができた。視点のたせ方は大事である。									

No.4	活動名	ジャガイモの栽培活動	活動の時期	9～1月						
学習活動の流れ		具体的な内容と見つめる視点等								
畝立て・施肥 ↓ 種芋の植え付け ↓ 間引き・追肥 土寄せ作業 (まとめる活動) ↓ 収穫 ↓ 食べる活動 ↓ まとめる活動	<p>◆ 「ポテトパーティーをやりたい」との声から、ジャガイモの栽培を始めた。今年度が初めてのジャガイモ。種芋を植え付ける、茎を間引くなどこれまでの作物と育て方の違いに驚きながら作業をしていた児童だった。【探究的活動】【主体・協働】【横断・総合】〈社会〉農家の仕事</p> <p>◆ ポテトパーティーでの調理(フライドポテト・ポテトチップス・ポテトサラダ)では、保護者の協力ももらった。油を使う際の注意点や後処理、美味しく仕上げるための工夫など教えてもらい学びの多い活動になった。【主体・協働】【横断・総合】〈家庭科〉楽しい会食等</p> <p>----- ★児童の感想★ 種芋や土寄せ作業など初めてのことが多くてびっくりした。大きくて立派な茎も間引いて3本にした。次に植える時は、間引かないとどうなるのか比べてみたい。収穫したジャガイモは家庭科の調理実習でも使った。うれしい気持ちになった。</p>	 <p>種芋の植え付け</p>  <p>できたジャガイモ</p>								
評価	探究的活動	◎	横断・総合	◎	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	○
考察	○ 身近な作物なのだが、育て方等に違いがあることに驚く児童であった。どんな料理にでも使えるジャガイモ。いろいろな活用、生かし方ができる作物だと言える。									

No.5	活動名	赤大根の栽培活動	活動の時期	9～1月
------	-----	----------	-------	------

学習活動の流れ	具体的な内容と見つめる視点等
施肥・畝立て ↓ マルチシート張り ↓ 種蒔き ↓ 間引き (食べる活動) ↓ 除草・灌水・追肥 ↓ (まとめる活動) ↓ 収穫 ↓ 漬物づくり (食べる活動) ↓ まとめる活動	<p>◆ 間引きや追肥、灌水などは作物を育てていくために欠かせない作業である。「どうしてこんな作業が必要なのか？」と児童に問いながら考えさせるよう意識した。また「大切に育てたい、大きく育てたい」という児童の思いが更に膨らむよう一つ一つ地道に取り組むことを大切にしました。朝に観察や世話を進んでしたり、変化に気付いて報告にきたりと、児童が作物の生育を楽しみにしながら関心を持ち、活動に参加する姿が見られた。</p> <p>【横断・総合】〈理科〉植物の発芽と成長〈社会〉農家の仕事〈道徳〉生命の尊さ【主体・協働】</p> <p>◆ 間引いた赤大根の芽などはサラダにして食べた。育てる途中で食べる楽しみがある作物は、子どもたちの関心を引きつけ、意欲をかき立てることにつながるなど、学校向けだと思う。また、少しでも命を無駄にしないことを考えさせる場とすることもできた。</p> <p>【横断・総合】〈道徳〉生命の尊さ</p> <p>◆ 収穫の際に、「ポコッ」という音に注目させた。大根が土から抜かれ命を絶たれた音である。そこから何を感じるのか児童に問いながら命のつながりや食を見つめる活動も取り入れた。</p> <p>【横断・総合】〈道徳〉生命の尊さ、感謝</p> <p>◆ 生育の様子や作業の様子、調べたことなどをパソコンを使って新聞形式でまとめた。児童の希望での選択だったが、班長の上学年が3年生に入力の仕方や操作を教えながら作業を進めていた。川上フェスタや川上ふれあい館に掲示することを前提として相手意識をもたせながら作成を進めた。</p> <p>【横断・総合】〈国語〉書くこと【まとめ・表現】【主体・協働】</p> <p>◆ 収穫した赤大根は家庭に持ち帰ったりお世話になった地域の方に配ったりした。それぞれの場面でたくさん褒められた児童はとても喜んでいて。また、地域の方を講師に招いて大根の漬物づくりを教えていただく活動を行った。(自分たちで育てた餅米・ササゲを使った赤飯作りも併せて行った。)</p> <p>【横断・総合】〈家庭科〉食べて元気に〈道徳〉家庭生活の充実等</p> <p>★児童の感想★ 今年は昨年より収穫が早かった。なぜかと考えてみると、天気の変化に植物の生長は左右されるから、今年は大根にあった気候だったのだろう。</p>



畝立て・施肥



赤大根の収穫



漬物作り



間引き・追肥

評価	探究的活動	○	横断・総合	◎	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	◎
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------	---

考察	<p>○ 命のつながりや命を育む大変さなど、命を意識させながら活動を行った。直接関わりのある理科や家庭科に限らず道徳的な心情にも広がりのある活動にすることができた。</p> <p>● 数年大根の栽培を続けていることから、探究的な活動になりにくくなってきたと感じる。</p> <p>● 環境が整えば、販売活動にも取り組めるとキャリア教育的な点もより深まりが期待できる。</p>
----	---

No.6	活動名	新しい畑の開墾作業（土づくり作業）	活動の時期	6～12月
------	-----	-------------------	-------	-------

学習活動の流れ	具体的な内容と見つめる視点等
※樹木等の撤去 ↓ ※土の搬入 ↓ ※整地 ↓ （調べる活動） ↓ 土ふるい作業 ↓ 土ならし作業 ↓ 土の改良作業 （食べる活動） ↓ ミニ開墾記念式典 ↓ （まとめる活動） ※印は業者委託	<p>◆ 新しい畑には大小の石や瓦礫が多数あった。この石等が作物栽培の障害になることを、児童はこれまでの活動で経験的に学んできた。地域の方が厚意で開いてくれた畑をより良い畑にするためにまず、畑を30cmほど掘って土を「ふるい」にかけ石や瓦礫を除去した。育苗用の土の準備等でふるいを使った作業は経験していたが、重労働だった。広くはない畑なのだが、多くの石や瓦礫、粘土質の土の塊が作業をより大変なものにした。開墾には苦勞がつきものである。学校の周囲に広がる田畑がどのように整備されたのかを児童と想像し先人の苦勞を考え感じながら、仲間と協力し合って頑張る児童であった。</p> <p>【横断・総合】〈道徳〉 勤勞, 努力と強い意志 〈社会〉 3年郷土の先人【主体・協働】【社会参画】</p> <p>◆ 土ふるいが終わった土は粘土質で水はけも悪かった。どのような土が望ましいのかを本で調べた。その後、「腐葉土や堆肥を混ぜて土を柔らかくしよう。」という児童の意見を取り入れるのはもちろんのこと、薫炭（粃殻の炭）を作って土壌改良を図る作業にも取り組んだ。薫炭作りは、焼き芋作りも併せてできる一石二鳥の活動なので、1・2年生が生活科で育て収穫した芋使い、全校児童で焼き芋を美味しく味わいながらの活動となった。薫炭作りなどの先人の知恵を学ぶ活動にもなった。薫炭作りは児童はもちろんだが地域の方々の関心も高かった。</p> <p>【探究的活動】【横断・総合】〈社会〉 郷土の先人 〈理科〉 物の燃え方 【社会参画】</p> <p>◆ 土壌改良にはまだ複数年かかりそうである。薫炭作りを来年度も実施する予定である。また、多量に必要となる腐葉土なので、児童が掃き集めた校内の落ち葉を用いた腐葉土作りを始めた。落ち葉がどのように腐葉土になるのかや撒いたソバ殻の意味などに関心を持ちながら作業をする児童だった。</p> <p>【横断・総合】〈理科〉 生き物のくらしと環境 【探究的活動】【主体・協働】</p> <p>★児童の感想★ 開墾なんて人生で1度できるかできないかの作業なので、いい体験ができた。作業は体力勝負だった。昔の人は広い畑や田を手作業で開墾したと思うとすごいことなんだと感じた。この新しい畑をどんどん使っていきたい。</p>
	土ふるい作業
	土ならし作業
	薫炭・焼き芋づくり
	腐葉土まき
	腐葉土作り
	薫炭作り
	ミニ開墾記念式典

評 価	探究的活動	◎	横断・総合	◎	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	◎
考 察	○ これまで様々な作物づくりを通して食農教育を展開してきたが、開墾を体験しながら土を見つめる活動の機会はなく、まさに学びのチャンスだった。先人や農家の方の苦勞、麦の栽培を通した食文化の理解など、児童にとってより深く感じる活動になるからだ。									

No.7	活動名	小麦の栽培活動	活動の時期	12～6月
------	-----	---------	-------	-------

学習活動の流れ	具体的な内容と見つめる視点等
---------	----------------

(調べる活動)
↓
施肥・畝立て
↓
種蒔き
↓
※除草・灌水
↓
※
(まとめる活動)
↓
※麦踏み作業
↓
※収穫
↓
※乾燥・脱穀
↓
※食べる活動
↓
※
(まとめる活動)
※印は今後の活動

◆ 新しい畑の開墾作業に時間を要してしまった。開墾した畑で何か作物を育てる計画だったが時期は12月。この時期の作付けは経験がない児童であり、図書室で調べてみても収穫が4～5月と年度を跨ぐ作物が多かった。まさにピンチだった。検討した結果、「小麦」を育てることになった。年度を跨ぐデメリットについても触れ、十分に話し合った結果だった。努力して作り上げた畑であること、地域の方に協力をしていただいたことなどを考え、せっかくのことなので育ち方やその姿すら知らない小麦に挑戦することを選んだ児童だった。小麦は米や大豆と同様に食生活には欠かせない穀物である。しかし栽培されている小麦を見かけることはとても少なく、大人でさえ触れたことがない人が多いのが小麦である。まさに学びの幅を広げるチャンスと言える。児童の関心もとても高かった。

【横断・総合】〈理科〉〈社会〉日本の食料生産
〈国語〉3年すがたをかえる大豆
〈道徳〉感謝，伝統と文化の尊重等



調べ学習



畝立て



種蒔き

◆ 児童が主体的・能動的に活動に関わるためには、作物の育ち方や育て方がある程度知っておくことが必要である。図書室等の資料を調べたり、経験豊富な人に聞いたりしながら学んだ。また、麦を育てる過程には「麦踏み」があることを知った。「なんで踏むの！枯れそう！」と不思議がりながらも麦踏みができる日を楽しみにしていた児童であった。【探究的活動】

◆ 筋蒔きで小麦の種を蒔いた。筋蒔きは初めての児童が多く、作物によって種蒔きの仕方に違いがあることを知る機会になった。また児童全員が小麦の種を初めて手にした。すべすべした感触に驚きながら種蒔きに取り組んでいた。

【主体・協働】【横断・総合】〈理科〉

◆ 発芽してしばらくすると約半数の小麦が根元から切られて散乱していた。どうも虫が原因のようだった。慌てて追加で種を蒔いたが、その種も鳥にきれいに食べられてしまった。虫や鳥の食害は作物の栽培活動にはつきものである。農家の大変さや苦勞を感じる機会になった。

★児童の感想★ 麦は米と同じように育てると思っていたけど違った。しかも、麦を踏んで根や茎を強くする作業もするらしい。麦は私たちの食生活に欠かせない物だし知らないことが多いので、これからの生長が楽しみだ。立派に育てたい。



発芽した小麦

評価	探究的活動	◎	横断・総合	◎	主体・協働	◎	まとめ表現	○	社会参画	○
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------	---

考察 ○ 年度を跨ぐ作物はこれまで扱わなかったが、身近な食材である小麦は児童の関心がとても高く探究的な活動につながった。春蒔きの品種もあるので計画への盛込みを検討する価値がある。
● 年度を跨ぐこともあり6年生は途中からの過程を見ることができない。何らかの形で還元する方法を考えたい。

7 現状のまとめと学習内容を見直す改善策

学習内容の検証結果と考えられる改善策を、押さえてい5つの視点ごとにまとめてみた。

視 点	現 状 と 改 善 策	(○成果 ●課題)
探究的な 学習活動	○ 全体として探究的な学習活動が展開されている。 ● 連続して同じ作物を栽培すると、育て方等を調べる活動が自ずと減り、また課題意識をもちにくくなる。	
	----- ササゲのような伝統的な作物を扱うことも、探究的な学習につなげやすいと感じた。また、川上ブランド「読書指導」(県研究指定校)を踏まえて、図書室の機能を生かして自ら調べて学ぶ活動にも積極的に取り組みたい。	
横断的・ 総合的な 学習活動	○ 全体として横断的・総合的な学習活動が展開されていた。 ○ 漫然と栽培活動を行うのではなく、作業の意義を考えさせたり児童のもつ疑問を生かしたりしながら、視点をもたせ意識させることが大事であった。活動の幅も広がり質の高い学びにつながる。 ○ 畑の開墾作業等から、先人の努力や苦勞、農家の仕事や苦勞や作物への思い、地域の方への感謝の気持ちなどより良く学ぶ機会となっていた。 ● 小規模校ということの中・高学年合同の学習であることから、学年間の発達段階の違いをどうするか、年度ごとの特色をどうもたせるのかが難しい。	
	----- 作物を扱う以上、命のつながりや大切さ、命を育む大変さや食の有り難さ等には今後とも意識を向けさせたい。また、食文化に密接に関わりのある作物を扱うことで、他教科や領域との関わりが広がり、より横断的・総合的な活動が展開できる。新しい畑の開墾作業は終わったが、土壌改良作業は続ける必要がある。来年以降はその点に視点をおいた活動が期待できる。さらに、視点を明確にする上で、意図的で計画的な活動の構成も盛り込んでもいいのではないか。	
主体的・ 協働的な 学習活動	○ 自分たち自身で活動するものであるという意識が高い児童である。活動の準備や水掛などの作業も自分たちで考え行動していた。上学年の児童が下学年児童に手ほどきをする姿が見られた。 ○ 少ない人数ということもあり、児童全員が協力し合いながら活動していた。また、地域の方や保護者に先生役として協力してもらえた。児童間だけではなく地域との協働にもつながった。 ● 米作りの活動は、児童が日常的な作業に携わっておらず主体的な活動とは言えない。全校児童が毎年同じ活動をしている点からも探究的な部分が抜けてきている。	
	----- 米作りは、田が学校から離れていることや活動時間にも余裕がないことから、児童の主体性を期待できない。餅米と白米の違いなどに興味をもたせるなどして探究的な部分を補いたい。また、朝の活動の時間に児童が自ら灌水等の作業に取り組んでいた。活動時間の確保にもつながるし作物の変化にも気づくことにもつながった。誉めながら継続させていきたい。さらに連作障害を防ぐ作業に昨年は苦勞したが、今年、地域の方が手軽な方法を教えてくれていい学びとなった。地域の人材をどう生かすかも考えていきたい。	
まとめ・ 表現する 学習活動	○ パソコンを使っての新聞作りを通して活動をまとめた。活動の流れや育て方に限らず、疑問を持って調べたことなども記事としてまとめられていた。川上フェスタや川上ふれあい館に掲示して、児童の活動を紹介する機会にした。 ● まとめや発表に費やせる時間が短かった。	
	----- 今年は、扱った作物全てを新聞にまとめた。時間的な制約もあることから、主になる活動に絞った上で内容を充実させたまとめをさせていきたい。また、児童が認められる場として発表を捉えたら、紹介する場面が少ない。川上ブランド「ICT活用」を踏まえ	

	てテレビ会議システム等の活用を検討したい。
社会参画 しようと する態度 につながる 学習活 動	○ 社会参画をキャリア教育の視点で捉えると、作物の栽培活動そのものが社会参画を促す活動と言える。 ----- この学習内容を生かす活動として作物の販売に取り組みたら、更に学びの幅を広げられる。経済活動である農業をもっと身近に捉えることもできる。店舗での販売活動のハードルは最近では低くなったが、販売となるとある程度の数が必要になる。育てる作物を限定するなどの工夫が必要になる。

食農教育をより良く展開するには、「人・時間・環境」の条件が必要だと考える。しかし、全ての条件をそろえるのは難しい。そこで、今後は、本校の学校教育目標や学校の実態に合った活動にしていきたいと思う。まず、より「探究的な学習活動、横断的・総合的な学習活動」となるように改善を図り、併せて川上ブランドである「読書指導・ICT活用」につながる内容にしていきたい。児童の思いや見つけた課題を大切にしながら、学びの幅を広げ深まりにつながる視点をもたせられる計画づくりや指導の実践にしたいと考える。



パソコンを使った新聞作り

8 おわりに

「きつくて大変な作業が多いけど、それがあるから収穫が嬉しいし、食べる活動がもっと楽しくなる。様々なことも学べるし、そこがこの学習のいいところだし楽しいところ。」2学期の活動のまとめに児童が書いた感想だ。土に触れ、土を耕し、土に根ざす活動は、派手さはない。しかし、自然に左右さ



餅米の粃蒔き



茶摘み

れ翻弄されながらも実りを手にした時の喜びは大きいと感じている私だが、それ以上のことを感じてる児童のようだ。川上ブランド「食農教育」。本校の特色ある教育活動として、より良いものにしていかねければならないと感じている。「大変だけど楽しい。」「川上小で学べてよかった。」どの子も笑顔でそう答える、そんな学習活動を目指して課題を改善しながら今後も取り組んでいきたい。そして、特認校生がもっと増え、活気のある学校・地域になることを願っている。

9 参考文献

- ◆ 「令和元年度 小学校教育課程資料 第3集」
鹿児島県教育委員会 令和元年10月発行
- ◆ 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」
文部科学省 平成29年7月



育苗用の土づくり



新しい農園の石ころ拾い



グリーンカーテンのササゲ